

ふつらび

富士山写真展

めぐる季節、一瞬の光 ...
移ろいゆく富士の姿に想いを込めて ...

渡辺英基

2021 9.1 [水] ~ 26 [日]

AM 9:30~17:00 (ただし入館は16:30まで)

休館日: 毎週月曜日(20日[月]は開館)・21日[火]・24日[金]

入場
無料

題字 笠井魚山

近藤浩一路記念南部町立美術館

Koichiro-Kondo Memorial Nanbu town Museum of Art



常設展

近藤浩一路(水墨画) 入場料: 一般300円、中学生以下200円

[主催] 南部町教育委員会 [協賛] みらいパブリッシング(株)、山十製紙(株)、synapse (順不同)

[後援] 山梨日日新聞社、山梨放送、テレビ山梨、FM富士、富士ニュース社、岳南朝日新聞社 (順不同)

ごあいさつ

私が初めて富士山を意識したのは、小学生の低学年の頃です。身延線に乗り富士宮市へ向かう途中、山間部を通り過ぎ、沼久保駅を過ぎたあたりから、右の車窓に突然富士山が見えてきます。

すると電車は大きく右にカーブし、富士山は左の車窓へと移ります。人影もまばらな、先頭車両で私はいつも、どんどん大きくなる富士山を追いかけていました。それから十数年後、私は富士宮市内へ就職しました。毎日富士山を眺めているうちに自然とカメラを向けるようになりました。

そして今、初めて富士山にカメラを向けてから30数年の時間が過ぎようとしております。風景は、一期一会。二度と同じ表情を見る事はありません。そんな緊張感が好きで富士山を撮り続けて来ました。まだまだ、未熟な作品ばかりではございますが、どうか最後までご覧いただければ幸と存じます。最後に本展の開催にあたりご協力頂いた関係各位、南部町教育委員会、及、会場を提供いただいた南部町立美術館様など関係者の方々に心から感謝の意を表します。

【作者プロフィール】

渡辺英基(わたなべひでき)/EIKI.W

1960年、山梨県南部町生まれ 在住。30年以上富士山を撮り続けているネイチャーフォトグラファー。

中学1年生の時、初めて一眼レフを購入したのをきっかけに写真撮影を始める。まず、ネイチャーフォトの世界に興味を持つ。1987年、秋山庄太郎氏の主宰する『花の会』に所属し、中判カメラの購入をしたのを機に富士山の撮影を始める。1989年、写真家青柳茂氏に師事し商品撮影を学びながら、本格的に富士山撮影に打ち込む。以来、ライフワークとしている。



第一展示室 季節と光のうつろひ



第二展示室 雲と星のうつろひ



近藤浩一路記念南部町立美術館

〒409-2213

山梨県南巨摩郡南部町大和360番地

TEL:0556-62-9292 FAX:0556-62-9293

<https://www.town.nanbu.yamanashi.jp>

【アクセス】 ■ 電車 JR 身延線「内船駅」下車
・タクシーで約3分(片道約1,000円) ・徒歩20分(約2km)

■ 自動車 ・中央自動車道より中部横断自動車道 下部温泉早川ICから約25分 県道富士川身延線を静岡方面に向かい「南部橋東詰」交差点を右折
・東名、新東名高速道路より中部横断自動車道 南部ICから約5分 国道52号線を静岡方面に向かい、トンネルを2つ過ぎ当館看板を左折

